

2025年度 セミナーご案内 **東京** **オンライン**

品質管理セミナー ベーシックコース



QC検定
1級レベル対応

わが国でもっとも伝統と実績のある
品質管理のエキスパート養成コース

Quality Control seminar basic course 2025

CONTENTS

- | | |
|-----------------------------|-------------------------------------|
| 1 BC 運営委員長からのメッセージ | 7 BC 継続派遣企業 人財育成の仕組み |
| 2 日科技連理事長からのメッセージ | 8 派遣部門の声 |
| 3 なぜ“品質管理エキスパート”が必要なのか？ | 9 修了者の声・品質管理検定（QC 検定）～1級合格をサポートします～ |
| 4 充実したコンテンツ | 10 データから見るベーシックコース |
| 5 カリキュラム | 11 参加要領・開催日程・申込方法 |
| 6 品質管理エキスパートの育成を実現する“7つの特長” | |

主催

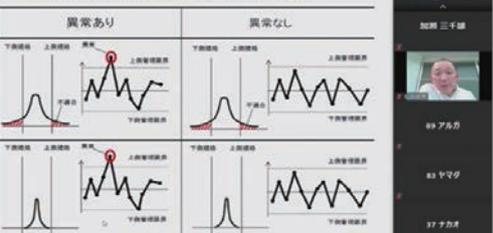
一般財団法人 日本科学技術連盟
<https://www.juse.or.jp/>



日科技連 BC

検索

ヒストグラム/管理図から得る情報



1 BC運営委員長からのメッセージ



本コース運営委員長
永田 靖 氏
早稲田大学

ベーシックコースの魅力 「誇れる世界一充実した教育内容」

品質管理セミナーベーシックコース（略称BC）は、1949年の開設以来、長い歴史を刻んできたセミナーです。「品質管理技術に関する深い知識と高い応用力の習得」を目指し、75年間にわたり延べ146回、320クラスを開講し、35,039名の研修生を産業界に送り出してきました。

本コースは、顧客および社会のニーズに応え、競争力を高めるために、経営上の重要問題・課題を的確に捉え、それらを効果的に解決する技術者やスタッフを養成することを目的としています。経営環境の変化に対応し、カリキュラムの改良を重ねて発展してきました。その魅力は以下の7点に集約されます。

1. 統計的方法や品質管理手法を、理論と実践の融合を通して深く学ぶことができる
2. 品質管理活動を組織的に推進・実践するための要素を総合的に提供
3. 宿題演習、ケーススタディ、ゲームを用いた多様な教育方法により、広範な知識と応用力を習得
4. 経験豊富な講師陣による卓越した講義と指導
5. 個別改善テーマに関して、講師陣との共同研究を通じて問題解決力を養成
6. 品質管理の全領域を網羅する実践的でわかりやすいテキスト（全27分冊）を提供
7. 品質管理検定（QC検定）1級の合格レベルに相当し、資格取得を目指す方に最適な内容

独創的な製品やサービスの創造、それらを確実に提供するための技術革新、および人材育成の強化は、時代に即したものづくりを実現し、グローバルな競争優位を築く上で重要です。このために、本コースの活用を心より推奨します。

2 日科技連理事長からのメッセージ



トヨタ自動車株式会社 元 副社長
日本科学技術連盟 理事長
佐々木 眞一 氏

「現場を強くするには、人を育てようとする経営者や管理職の決断力が不可欠」

40年以上も前ですが、私はトヨタ自動車工業に入社しました。検査部車両検査課の技術係として、工場内の製造現場で発生する不具合の原因究明を行っていました。品質管理の基礎教育を受けていましたが、検査の技術係の実践的な仕事であり活かせませんでした。分からないことが沢山あり悩んでいた時期に、上司の勧めにより申し込んだのがベーシックコース（BC）です。それまでSQCの基本である統計学をきちんと学んだ経験がなかっただけに、統計とはすごいものだなと率直に感じました。

現場も、データに基づいた解析結果で説明すると、すんなりと受け入れてくれて、お互いに納得して問題解決に当たることができました。検査係を担当していた私にとって、BCはうってつけの研修だったと思います。

特に、実験計画法は、勉強では苦労しましたが、その後の私にとって一番役に立ったと思います。もう一つ、学んだ手法のなかで印象深かったのが、コースの終盤に出てきた多変量解析法です。こういった解析手法になるとさらに難易度が上がり、いっそう勉強をしなければ駄目だと思ふようになり、向学心を覚えました。

近年、日本の産業界で品質不祥事などの問題が起きています。その一つの要因として職場での品質管理能力の相対的な低下があるのではないかと危惧しています。お客様の要求レベルだけがどんどん上がってしまい、技術者がその要求レベルに合った改善や問題解決能力を身につけられないまま対応せざるをえない、そのようなギャップが生じる状況に大きな問題があるのではないのでしょうか。こうした状況に対応する一つの方策としてBCはとても向いていると思います。異常や問題点が見つかったとき、それに対応して解決できる力をもつ人財を教育することができます。

従業員の商品管理能力、問題解決能力を高めるのは経営者や管理職の役割です。そして、それはお客様に対する責任でもあります。品質管理や問題解決の研修を受け、エキスパートになった人がいると、その職場の改善力、現場力は強くなれます。そのために、まずは人を育てようとする経営者や管理職の決断力が不可欠だと思っています。



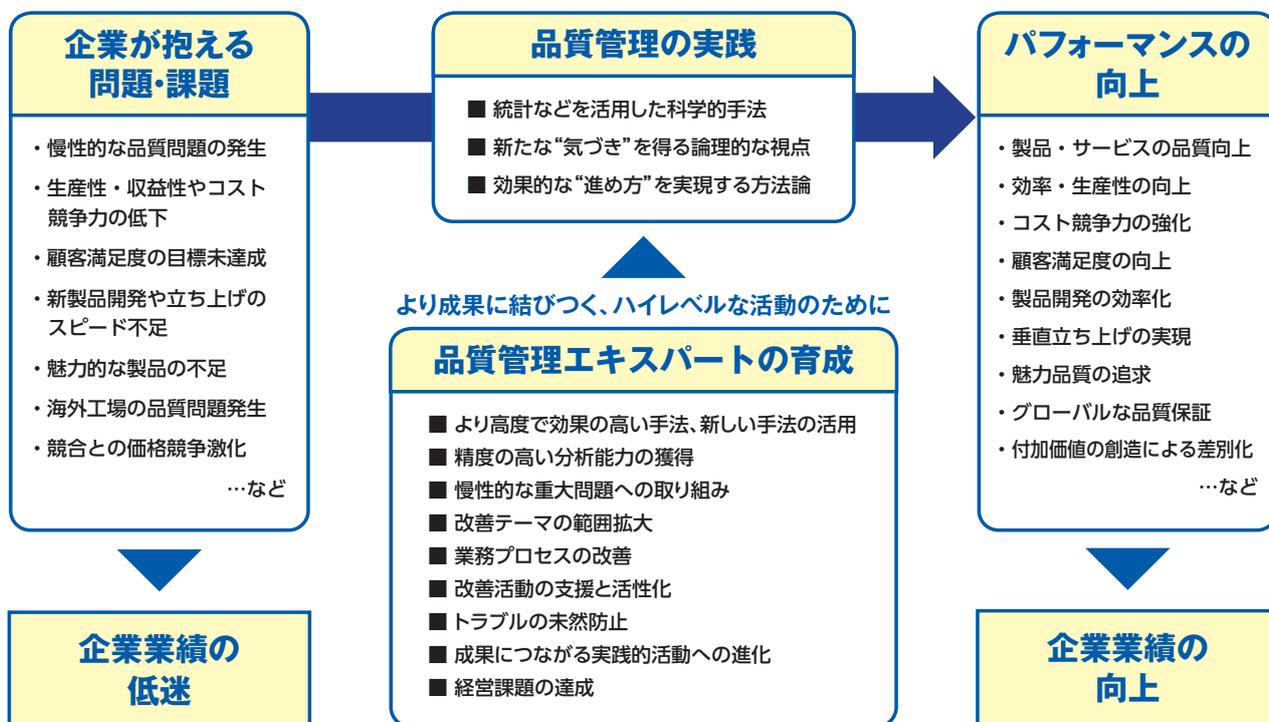
3 なぜ“品質管理エキスパート”が必要なのか？

企業には必ずと言っていいほど、さまざまな「解決すべき問題（悩み）」や「達成すべき課題（目標）」があります。

品質管理とは、それらの問題解決・課題達成を進めるための「具体的手段＝適切な“方法”や“しくみ”の集まり」だと言えます。「新たな気づきを得られる“ものの見方・考え方”」や、「統計をベースにした“科学的手法”」、「問題解決・課題達成を効果的に進めるための“ストーリー（段取り）”」、「組織的な取り組みを進めるための“ノウハウやマネジメントスキル”」など、さまざまな具体的手段が集まっています。

それらを活用することで、重大な問題や困難な課題を乗り越え、企業のレベルアップを図ることができます。

すなわち、「品質管理のエキスパートを育成する」と言うことは、「企業のかかえる問題・課題を、より適切かつ効果的な方法で迅速に解決し、製品・サービスの品質や顧客満足、生産性や効率、コストや利益の改善に寄与し、企業のパフォーマンスを向上させる人材を育成する」ことだと言い換えることができます。



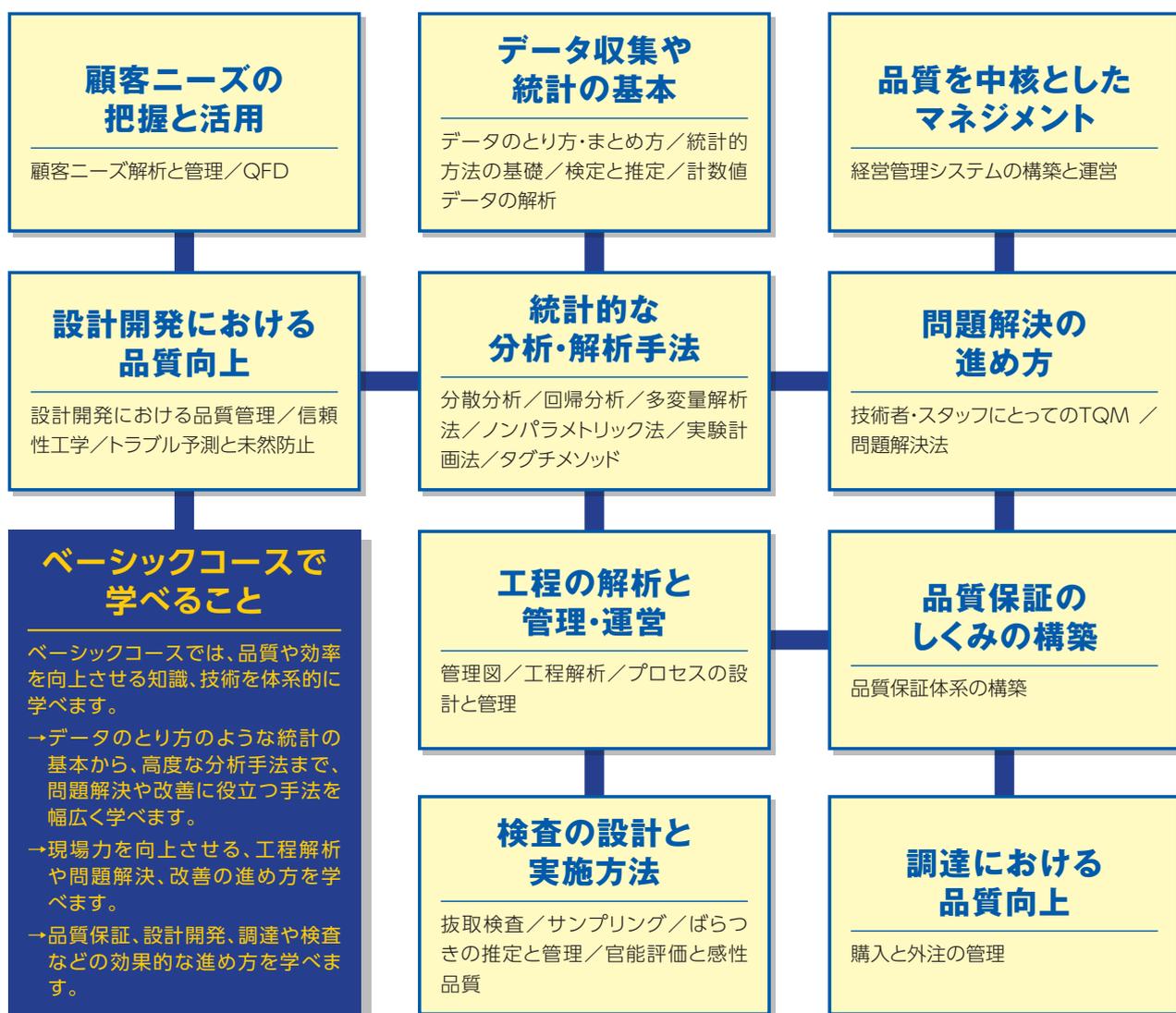
これまで数多くの“品質管理エキスパート”を輩出してきた「品質管理セミナーベーシックコース」
その指導方法の秘密とは？ 詳しくは次ページ以降をご覧ください！



4 充実したコンテンツ

品質管理エキスパートの育成に必要な知識・技術・方法論を、体系的に学んでいただけます。

品質管理エキスパートに求められる資質は何か。それは、現場で起きていることを正しく、かつ精細に理解する分析力と、それを支える手法・技術の活用力、そしてその分析結果を問題解決や改善へとつなげる方法論です。また、さまざまな業務のあるべき姿を正しく理解し、それらの取り組みを業務に活かすことで、実績につなげていく実践力も求められます。ベーシックコースでは、それらの知識・技術・方法論を基礎から体系的に学ぶと共に、実践力を養成します。



5 カリキュラム

	第1月	第2月	第3月	第4月	第5月	第6月
第1日	技術者・スタッフにとってのTQM① 本コースのオリエンテーション、企業経営とTQM、TQM推進における技術者・スタッフの役割	検定と推定③ 2つの母分散に関する検定と推定、2つの母平均に関する検定と推定	実験計画法① 分散分析の要点と基本事項、2水準系直交配列表実験、適用例	計数値データの解析① 母不良率に関する検定と推定、母不良率の違いに関する検定と推定、母欠点数に関する検定と推定、母欠点数の違いに関する検定と推定	実験計画法③ 分散分析の要点と基本事項、乱塊法、分割法	タグチメソッド① 特性値に影響する要因とノイズ、設計と実験計画法、パラメータ設計の概念、パラメータ設計における因子、静特性のパラメータ設計、動特性のパラメータ設計
	技術者・スタッフにとってのTQM② 品質の考え方、管理の考え方、TQMの基本的考え方と問題・課題認識	検定と推定④ 対応のあるデータの母平均に関する検定と推定、相関に関する検定と推定、一様性、異常値、正規性に関する検定	実験計画法② 3水準系直交配列表実験、直交配列表を用いた多水準法と擬水準法	計数値データの解析② 適合度の検定、分割表による検定、母不良率に関する帰帰分析、母不良率に関する分散分析	実験計画法④ 適用例、直交配列表を用いた分割法	タグチメソッド② パラメータ設計の意義とDesign for Quality、パラメータ設計で使用する直交表、非線形システムのパラメータ設計、入出力が測れない場合のパラメータ設計
第2日	データのとり方・まとめ方① 品質管理とデータ、データをとる際の注意、チェックシート、バレット図、グラフ、ヒストグラム、特性要因図	管理図① 管理図とは、Xber-R 管理図の作り方、Xber-R管理図の見方、その他の管理図	プロセスの設計と管理① 工程能力調査、QC工程表、作業標準書、作業のフルブルー化	帰帰分析③ 重回帰分析とは、重回帰モデル、帰帰係数の推定、偏帰帰係数の解釈、標準偏帰帰係数、平方和の分解と重相関係数、帰帰係数に関する検定と推定、帰帰モデルに関する検定・推定、帰帰式による予測	実験計画法 ケーススタディ 実験の方法、得られたデータの解析方法を講義で学び、理論的内容の理解・考え方や概念の理解・統計的方法のセンスを習得する	官能評価と感性品質 官能評価とは、官能評価におけるデータの性質、官能評価の実施法、官能評価の統計的手法、感性品質、事例
	データのとり方・まとめ方② 散布図、工程解析例、データ解析法のまとめ	管理図② 管理図による工程解析、工程解析の例、管理図による工程管理、管理図の数理	新QC七つ道具 新QC七つ道具とは、新QC七つ道具の各手法	帰帰分析④ 説明変数の選択、帰帰診断、いろいろな帰帰モデル、重回帰分析のプログラム、重回帰分析の適用	ノンパラメトリック法 ノンパラメトリック法とは、二つの母集団に関する推測、一つの母集団に関する推測、相関分析、分散分析法	プロセスの設計と管理② 工程設計、検査設計、初期流動管理、設備管理、計測管理
第3日	問題解決法 TQM活動における問題解決の重要性、問題解決の進め方、課題達成の進め方、問題解決におけるQC手法、固有技術と管理技術、問題解決力の診断	工程解析 ケーススタディ 改善すべき問題点を明確にし、収集したデータを用い、どのような要因に問題があるのかを統計手法で探し出し、対策案を立案する	顧客ニーズ解析と管理 市場ニーズの収集と解析、顧客満足度調査、品質表、商品企画評価	帰帰分析 ケーススタディ 個人演習で帰帰分析の基本的な解析手順、変数変換、カテゴリの統合方法等をトレーニングし、グループ演習では実場面への適用、解析方法を体験する	信頼性工学① 信頼性工学概論(概念とモデル、故障のパターン、信頼性予測)	品質保証体系の構築 品質保証体系、クレーム処理と重要品質問題の解決、文書化、内部品質監査、製造物責任
	問題解決 ケーススタディ QC手法を活用した実際の問題解決事例を取り上げ、その手順、着眼点、進め方等を体感・習得し、実践への橋渡しとする		QFD ケーススタディ 顧客の要求を把握、顧客要求の一覧表から企画品質を設定し、企画品質を具体的な製品やサービスに織り込むための設計品質に落とし込むまでの一連の作業について、品質表を通じて迅速に行う方法を習得する		信頼性工学② 信頼性データ解析(寿命分布と故障率、ワイブル解析)	経営管理システムの構築と運営 方針管理、日常管理、機能別管理、QC教育、QCサークル
第4日	統計的方法の基礎① 統計的推測、確率変数と確率分布、期待値、分散および共分散	分散分析① 分散分析とは、一元配置法	帰帰分析① 帰帰分析とは、単帰帰分析、最小二乗法とは、平方和の分解と分散分析表、帰帰に関する検定と推定、パソコンを用いた解析手順	サンプリング サンプリングの目的と概要、サンプリングの基礎理論、サンプリング法の設計	トラブル予測と未然防止 トラブル防止のための基本的な考え方、FMEA、FTAとは、デザインレビュー、事例	多変量解析法 多変量解析法とは、主成分分析、判別分析、その他の手法(クラスター分析、ソリモデル、一般線形モデル、対応分析)
	統計的方法の基礎② 正規分布、正規分布に基づく統計量の分布、正規性の吟味	分散分析② 二元配置法	帰帰分析② 残差検討、パソコンを用いた解析手順、繰返しのある場合の単帰帰分析、単帰帰分析の適用例	ばらつき推定と管理 分散成分の推定、群内変動と群間変動、測定の繰返し、誤差の管理	QC ゲーム コンピューター・シミュレーションによるゲーム方式で体得。最適条件探索という目的に合わせてデータを収集・解析し、結論を導く	班別発表会①
第5日	検定と推定① 検定と推定	分散分析③ 多元配置法、パソコンによる分散分析	抜取検査 検査、抜取検査、計数規準型抜取検査、調整型抜取検査	設計開発における品質管理 設計開発における品質管理の基本と重点活動、ネットワーク技術の予測と解決、設計の再利用と効率化、部門間連携のマネジメント	購入と外注の管理 購入・外注における品質管理の基本的考え方と重点活動、調達先の評価と選定、受入検査、調達先の指導・育成、品質の視点から見たSCM、グローバル調達	演習⑤ 前月の講義範囲から課された宿題の発表をベースに質疑応答を行い、疑問点を解消して統計手法の理解を深めるとともに、問題解決の応用力を身につける。
	検定と推定② 母平均に関する検定と推定、母分散に関する検定と推定	演習① 前月の講義範囲から課された宿題の発表をベースに質疑応答を行い、疑問点を解消して統計手法の理解を深めるとともに、問題解決の応用力を身につける	演習② 前月の講義範囲から課された宿題の発表をベースに質疑応答を行い、疑問点を解消して統計手法の理解を深めるとともに、問題解決の応用力を身につける	演習③ 前月の講義範囲から課された宿題の発表をベースに質疑応答を行い、疑問点を解消して統計手法の理解を深めるとともに、問題解決の応用力を身につける	演習④ 前月の講義範囲から課された宿題の発表をベースに質疑応答を行い、疑問点を解消して統計手法の理解を深めるとともに、問題解決の応用力を身につける	班別発表会②

6 品質管理エキスパートの育成を実現する“7つの特長”

品質管理エキスパートは一朝一夕に育成できるものではありません。

品質管理のエキスパートたるには、品質管理の全般に関する深い理解、各種手法に精通し活用できる知識、そして何より、実務で改善の実績を生み出せる実践力が必要となります。

「品質管理セミナーベーシックコース」は、次の“7つの特長”により、知識力と実践力の育成バランスの取れた日本随一のカリキュラムや指導体制を実現し、品質管理エキスパートを毎年数多く輩出しています。

1 充実した“指導体制”と、指導品質確保の取り組み

1) 講師陣

大学の学識経験者や企業の実務担当者などで構成される総勢約 200 名の講師陣が、それぞれの専門分野について丁寧かつ実践的に指導します。また、講師陣の殆どが、ベーシックコースの卒業生であるため、コースの内容を熟知しています。

2) 運営組織

セミナー全体を“運営委員会”で統括し、その下部組織としてテキストとカリキュラムを編成する“教程委員会”、各種指導教材の作成と改訂を検討する“宿題分科会”“ST 分科会”、指導方法の改善を図る“講義方法検討会”各種ケーススタディの作成と改訂を行う WG などといった検討委員会を設置しています。これらの委員会では、産学から約 80 名の委員が参画しており、その総活動時間は年間で約 2000 人時（人数×時間）にもなります。これらの活動により、カリキュラムやテキストの他、演習や試験、指導方法についても常に見直しを行っています。

3) 指導の品質確保の取り組み

講師の指導方法についても、講師会や表彰制度を設けるなど、向上を図っています。

講師会	班別指導優秀賞	年度キャンペーン優秀賞
定期的にセミナー講師が一堂に会する勉強会です。指導方法の向上などを図るとともに、最新情報の習得、優れた指導ノウハウの共有を進めています。	班別研究会の助言内容について参加者にアンケートを実施して、その結果を講師にフィードバックするとともに、優秀な講師を表彰しています。	セミナー全体で、年度ごとに講義ノウハウのキャンペーン・テーマ（例：「納得のいく説明」「興味の湧く講義」など）を設定し、優秀なノウハウの共有を図っています。

2 実務に直結する実力を養成する“班別研究会”

1) 改善テーマ

自社の品質問題から業務に関係の深い改善テーマを選び、研究を進めます。身近なテーマで改善を行うことで、より深い知識・経験を得ることができます。実際に改善実績をあげるとともに、毎月グループ研究の場を設け、問題解決・課題達成の諸手法・考え方の実践力を身につけます。



2) 一般討論

少人数のグループを編成し、その中でお互いの進捗を発表する“一般討論”を通して、自分の改善について多様な視点からの検証を行うとともに、他メンバーの改善の進め方を知ることは、自身の学習の参考になります。（機密保持誓約により、改善活動の情報は保護されます）

3) 個別研究

個別改善テーマについて、経験豊富な講師陣との研究を通じてテーマ解決を行うことで、問題解決力が体得できます。

4) 受講カルテ

班別研究会の活動は個人ごとに「受講カルテ」に記録されます。講師と受講者が進捗具合を確認・共有し、着実な研究に役立てています。

5) 研究抄録の送付

コース終了後、全受講生から提出されたレポートをもとに、「班別研究会研究抄録」を製本し、全員に送付しています。

テーマ例

- 【新製品開発】
 - 新製品開発システムの効果検証
- 【不良低減】
 - D製品における外観不良の低減
 - ハードディスクにおける磁気特性のばらつき低減
- 【品質保証】
 - フィールド情報分析によるクレーム件数の低減
 - 内部品質監査の有効性評価方法の確立
- 【標準化】
 - 製造管理指標の設定
 - CAE 解析による予測の制度検証・標準化
- 【システム構築】
 - プログラムにおける評価点の向上
- 【品質向上・改善】
 - 光センサの品質改善
 - 加工機における仕上面粗さの向上
 - 製品の規格登録・見積もり作成のリードタイム短縮

改善実績がものごたる“班別研究会の効果”

- 自動車メーカーA社 …… 1テーマ2億円
- 電気機器メーカーB社 …… 1億2千万円/年
- 窯業メーカーC社 …… 1テーマ1億円
- 電気機器メーカーD社 …… 1テーマ1億円

※改善効果金額の一例です。

③ TQMの全容を網羅した “カリキュラム・テキスト・講義シラバス”

1) カリキュラム

TQMの実践に必要な視点や手法、方法論などを網羅したカリキュラム (P.7 参照) で学習できます。

2) テキスト

テキストはカリキュラムの科目ごとに用意され、計 27 冊で構成されています。これらは、セミナー受講時のもとより、**セミナー修了後**も現場で TQM 活動を進めるときの**バイブル**として活用いただけます。

3) 講義シラバス

各講義科目の概要と到達目標、学習のヒント等のポイントがまとめられた講義シラバスを予習・復習に活用することで、効率的に学習を進められます。



④ 自分の理解度や実力を把握できる “Student Test”

2月目以降に毎月、講義内容に関する「理解度テスト」を実施します。その結果を通して**自己の理解度や実力を把握**し、後の研修の指針とします。

また、高得点者は成績優秀者として最終月に表彰される可能性が高く、**QC 検定 1 級受検対策としても有効**であることから、受講生が講義内容を復習するモチベーションの向上につながっています。



⑤ 学習内容を確実に身につける “宿題と演習”

1) 宿題

各月の間に課される「宿題」をこなすことで、**毎月の学習内容を復習**し、確実に身につけることができます。問題は非常に現実に近い内容を出題し、統計手法の基礎を復習するとともに実際の問題解決を行う上での実践力も同時に習得できます。

2) 演習

宿題をベースに次月の講義時に「発表・討論」を実施します。宿題演習では、単なる疑問点の解消に留まらず、**講師を交えて白熱した議論が展開**されます。これにより業務で活用できる**活きた手法**を身につけることができます。



⑥ “QCゲーム(逐次探索実験)” による実践的体験学習

一連の実験によって最適な条件を探索的に見出ししていく「逐次探索実験」を、PCシミュレーションにより**実践的に体験学習**していただけます。実務的な問題解決能力を養うことに有効です！



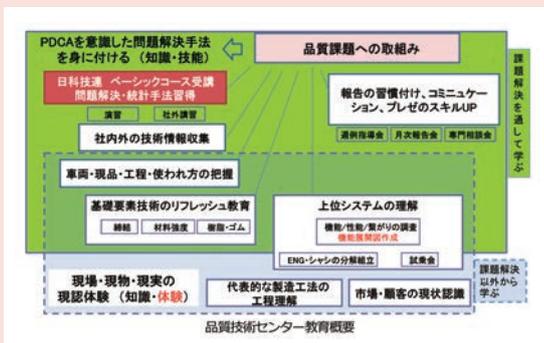
⑦ 即戦力を育成する “ケーススタディ”

問題解決や工程解析、品質機能展開、回帰分析、実験計画法について、具体的事例を通して**“活用法・適用法”**を習得していただくことで、“**即戦力**”を育成します。



7 BC継続派遣企業 人財育成の仕組み

「いすゞ自動車のBCを活用した技術者教育について」



当社は1916年（大正5年）創業であり、日本国内の自動車メーカーとしては最も古い歴史を持つ。2014年、開発部門若手技術者のレベルアップと将来の指導者育成を目的に、品質技術センターを設立した。開発部門各部から実務経験5年～10年の若手技術者10名程度を選抜し、1年間ライン組織、業務と離れた環境で教育を実施している。

品質技術センターでは、実際に発生した品質問題を題材に課題解決に取り組むが、その活動を技術的、論理的にサポートするのがBCである。若手技術者たちは4月にセンター入校後、翌5月からスタートするBCを受講するが、自身が取り組む課題をBC班別研究会のテーマとして登録することにより、BCで学ぶ統計的品質管理手法を実テーマで同時進行的に実践することが出来る。

またBC修了後、技術者たちは品質技術センターで新たな課題に取り組むが、そこで統計的手法を繰り返し実践、実体験することにより、SQCツールを自分のものとして身につけ、PDCAを意識した論理的、科学的なアプローチが行えるようになる。

品質技術センターでは、品質課題解決と並行して基礎要素技術のリフレッシュ教育や各種社外講習会の受講、代表的な製造工程の見学や製品の分解・組立を行うとともに、市場情報の取得方法等についても学ぶ。これら1年間の研修を通じて、技術者としての感性が磨かれ、将来の指導者としての素地が形成される。

BC70周年記念資料「品質管理セミナー・ベーシックコース 70年のあゆみ」一部抜粋

「エクセディにおける海外出向者教育へのベーシックコース活用」

当社は、駆動系を中心とした自動車部品の専門メーカーであり、1950年に前身となる株式会社大金製作所を設立。1995年にエクセディ（EXEDY）に社名変更した。

当社のベーシックコースへの派遣は86年より始まっており、当時は中堅・ベテラン社員が毎年2名程度受講。'01年からは若手～中堅社員を対象に派遣を再開、現在に至る。

また、海外出向者に必要なスキルを右に纏めた。

この中で1.と2.のスキル向上に際しては、ベーシックコースで学んだ事が非常に有益であった。当社では、派遣するスタッフが現地で品質の維持・向上、生産課題の解決などの実践で困らぬよう、海外出向者の教育プログラムにベーシックコース受講を組み込んでおり、現在までにベーシックコースを受講且つ海外出向を経験（計画を含む）したスタッフは総勢22名に上る。

1. 専門知識

海外拠点、国によっても異なるが、日本のように新卒から採用し育てていく環境は米国にはない。そのため、最も重要な事は現地スタッフから一目おかれる「専門知識」である。統計手法を含め製品知識等 様々な知識がある事で、現地スタッフと対等以上に渡り合う事が出来、信頼を得るための拠り所となると考える。

2. 判断力

海外では日本では考えられないような問題が発生する事がある。未然防止を徹底する事はもちろん大事だが、いざ問題が発生した時にも事実をきちんと整理し、迅速に判断する事が肝要。現地スタッフは日本人スタッフの一挙手一投足を見ている。

3. 人間関係における積極性

言語、文化、宗教観等 様々な違いを受け入れ、現地スタッフに溶け込んでいこうとする姿勢を見せる事で信頼関係を構築することが出来る。これは海外に限った事ではないが、業務中だけに留まらず、業務外でも現地スタッフと良好な関係を築く事が仕事にも良い影響を及ぼす。

4. 明確な意思表示、発信力

日本では「沈黙は金なり」「空気を読む」という言葉に代表されるように、明確に白黒を付ける事は避けられる傾向があるが、海外では自分の意思を明確に発信しないと、相手には伝わらない。俗にいう「指示待ち人間」では通用しない。

BC70周年記念資料「品質管理セミナー・ベーシックコース 70年のあゆみ」一部抜粋

コーセルにおけるベーシックコースの位置づけ

コーセル(株) 取締役 常務執行役員
清澤 聡氏

TQM導入以来、40年が経過しました。日科技連の品質管理セミナー／シンポジウムに、ここ10年間で全社員の約半数の延べ256人を送り出しました。特にベーシックコースは時間と費用の投資がかなり大きくなるコースですが、その効果には絶大なものと認識しています。

知識を得ても実践しないと自分のものにはなりません。その点、ベーシックコースでは高度な知識を得ると共に、受講者が自分のテーマを持ち、個別にアドバイザーから問題解決のポイント、方向づけなどアドバイスを受けながらテーマを解決します。

まさに知識の吸収と実践がセットになった、現場ニーズに合致したコースといえます。当社においては開発、生産技術部門において、5人に一人が履修し、現場を支えています。

また全部門でのベーシックコース修了者は、これまでで延べ117人になります。彼らは実験計画法等を用いた品質管理が身近になり、より深い思考で解析できること、統計的にものごとを考えることや、ばらつきなどを考慮することに長けているように思えます。

人的資源への投資促進が求められている今日、ベーシックコースはコーセルにおけるエンジニアの背骨をつくる教育として今後も重視し、取り組んでまいります。

「一日無料見学」のご案内

品質管理セミナーベーシックコースでは、カリキュラム(計30日間)のいずれか1日を無料で見学できる機会をご提供しています。下記のようなお悩みをお持ちの方には特にお勧めです。先着10名様(1社1名様)とさせていただきますので、この機会にぜひご利用ください!

1. 日数が30日間、かつ参加費が高額なセミナーなので、コースの内容を一度確認したい。
2. 受講を検討中であるが、講義について行けるかどうか、レベルを確認したい。
3. 「班別研究会」に興味を持っているので、一度様子を見学したい。

お申込み・
お問い合わせは
セミナー事務局
までお気軽に
ご連絡ください!



品質管理セミナーベーシックコースは日本統計学会第3回「統計教育賞」を受賞しました。

統計教育賞とは、わが国の統計教育の発展並びに統計の普及、啓蒙に貢献し、統計教育の研究及び実践において顕著な業績を挙げた個人又は団体を対象として授与される賞です。



データを見るときに思い込みをなくすこと

私はプロジェクターに搭載される液晶パネルのプロセス設計部門に所属しております。本コース受講経験のある先輩からお話を聞いたこと、また、統計的手法を活用することで製品品質を向上させたいと思い受講を決めました。

振り返ると統計的品質管理手法について考え続けた内容の濃い6カ月間でした。本分野の著名な講師の方々による講義や班別研究会での討論は貴重な経験であったと共に、自身のスキル向上につながったと感じております。特に「データを見るときに思い込みをなくすこと」、つまり、事実に基づく結果から考察することが大切だと改めて思いました。この経験を製品品質の作り込みに活かし、職場へも還元したいと考えております。

講義による知識の習得、班別研究会による実務を通しての実践。両者を兼ね備えた本コースは統計的品質管理手法を身に着けるにあたり最適な研修であると思います。興味のある方はぜひ受講を検討してみたいはいかがでしょうか。



セイコーエプソン(株)
ビジュアルプロダクツ事業部

小平 直人氏

144BC
(2023年10～2024年3月)
BC賞受賞

統計的手法を実務で活用したい方には ぜひ受講をお勧めしたい!

弊社上尾工場では、医薬品や食品用包装フィルムのコーティング、ラミネート、スリット加工を行っており、私は品質保証業務を担当しております。

受講以前にQC検定2級を受験し統計的手法の有用性は感じておりましたが、活用場面や活用方法まで理解が出来ておらず実務で使用するにはハードルが高い状態であり、より理解を深めたく本コースを受講致しました。

本コースは、統計的手法を実務でほとんど使用した経験がないような私でも内容の理解が追い付いていけるような丁寧な説明と、受講後に出题される宿題問題やテストによる復習の機会によって、手法の修得に非常に適した内容でした。

本コースが充実した研修になるかは、上司の協力も不可欠と強く感じました。私は、上司や職場のメンバーが他の業務のフォローや関係部署との調整等、研修へ集中できる環境をつくっていただいたこともあり、多くの知識を研修から吸収できたと感謝しております。今後は統計的手法の先導者として、修得した知識を分かりやすい言葉や事例を用いて社内展開し、多くの人が様々な場面で活用できるようになるよう、尽力していきます。

受講することで手法を実践的に身に付けられることは間違いないと確信しております。統計的手法を実務で活用したいと思われたなら、是非とも一歩を踏み出していただけたいと思います。



旭化成パックス(株)
環境安全・品質保証グループ

鈴木 智尋氏

142BC
(2022年10～2023年3月)
BC賞受賞

品質管理検定 (QC 検定) ～1級合格をサポートします～

ベーシックコースは、日本品質管理学会認定の品質管理検定(QC検定)1級レベル対応のコースです。コース卒業生より、続々とQC検定1級合格の声が寄せられています。BC修了後には、ぜひQC検定1級取得にチャレンジしてみてください。

QC 検定 1 級 合格者の声

141 BC オンラインクラス
齋藤 淳貴さん(旭化成株式会社)

QC検定1級は、単なる公式運用能力だけでは太刀打ちできず、「本当に理解しているか?」を問う難問が多く出題される試験でした。一方で、BCも表面的な知識の習得は目的としておらず、受講生が品質保証を様々な側面から本質的に理解できるよう、テキストや制度が工夫され、何より講師の方々の意欲が注がれていました。BCを受講したお陰で、私は幸運にも成績上位合格者としてQC検定1級を取得できました。QC検定の内容に留まらない実践的な知識と経験が得られるので、独学よりもBCの受講をお勧めします。

～ BC 修了生の方が、続々と QC 検定 1 級に合格されています!

138 BC (オンラインクラス)
新田 展崇さん(旭化成株式会社)

社内の品質保証業務への異動後1年でQC検定1級に合格しました。短期間で合格できたのは、BCの講義内容が会社での担当業務に関連し、学んだ知識をすぐに実務に活用でき、QCの基本的な考え方を体得できたことにあります。さらに毎月実施されるStudent Testを時間内に解くことや、課された宿題に対しては納得するまでじっくり取り組むことで力をつけました。また、班別研究会で学んだ問題解決の手順をQC検定の論述に応用できたことも幸いでした。私にとって合格はスタートラインであり、今後も見識を深め、自社の品質活動の向上に貢献していきたいと思っております。

138 BC (オンラインクラス)
宮谷 保太朗さん(オムロン株式会社)

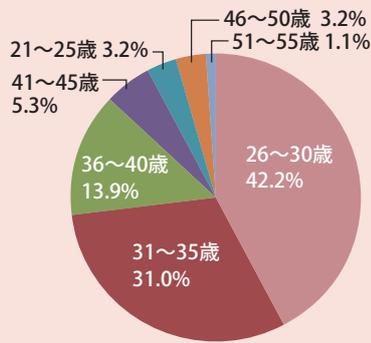
BCを受講しQC検定1級合格できました。私は品質管理部門に所属し採用する部品や当社製品に対する品質の確からしさをデータをもってロジカルに判断、当社お客様に対し品質保証することが求められています。そのため、品質経営の理解・統計的方法の活用が必要でした。私はそれを意識し講義される分析手法を、どの場面で活用できるか常にシミュレーションしながら受講しました。そのためかQC検定は当初予測していたよりも難易度を感じず受験することができました。それぞれの分析手法の違いを理解し統計量の意味について体系的に修得できるBC受講は本当に価値があったと考えています。末筆ではありますがBC講師の方々には本当に感謝申し上げます。

10 データから見るベーシックコース

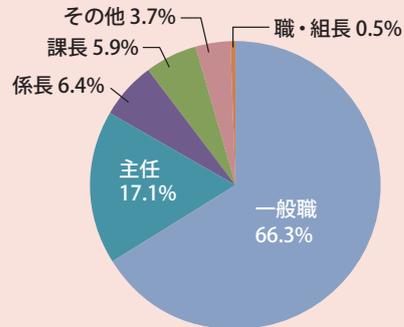
データから見るベーシックコース

参加者数 **35,039** 名 (累計・2024年12月現在)

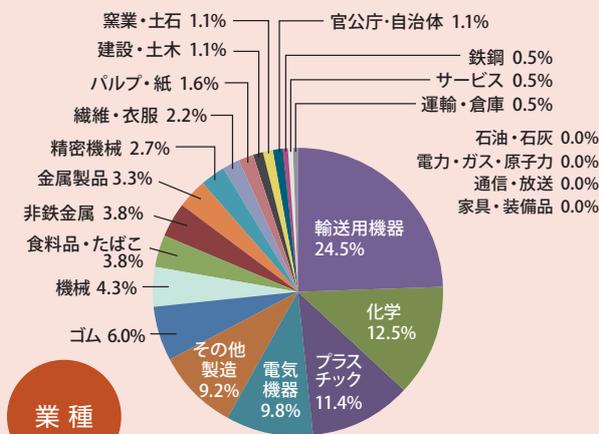
参加企業数 **63** 社 (2023～2024年度)



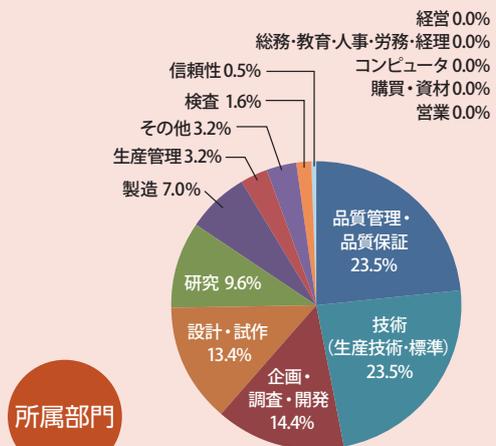
年齢



役職



業種



所属部門

2023～2024年度 参加会社一覧 (50音順) ※社名は受講当時のもの

あ

アイシンシロキ(株)
旭化成(株)
いすゞ自動車(株)
イチカワ(株)
(株)イーアンドエーマテリアル
AGC (株)
(株)エクセディ
SB カワスミ(株)
オーグマ(株)
OLED 青森(株)
(株)オティックス
オリンパス(株)
オリンパスメディカルシステムズ(株)

か

(株)金沢村田製作所
(株)カネカ
(株)神崎高級工機製作所

(株)キャタラー

グンゼ(株)
コーセル(株)
サントリー(株)
(株)SUMCO
新東海製紙(株)
住友金属鉱山(株)
住友ゴム工業(株)
住友ベークライト(株)
住友理工(株)
住ベシート防水(株)
セイコーエプソン(株)

た

大和製罐(株)
(株)大同分析リサーチ
DIC (株)
東洋製罐(株)

な

内外施設工業(株)
中越合金鋳工(株)
(株)中村屋
日産車体(株)
日鉄ケミカル&マテリアル(株)
日発運輸(株)
日本カーボン(株)
日本ゼオン(株)
日本製鉄(株)
日本フィルター工業(株)
ノボノルディスクファーマ(株)

は

パナソニック エナジー(株)
バンドー化学(株)
ファインネクス(株)
富士電機(株)
プライムアース EV エナジー(株)

古河電気工業(株)

プレス工業(株)
ぺんてる(株)

ま

三菱電機(株)
三菱マテリアル電子化成(株)
三ツ星ベルト(株)
(株)村田製作所

や

ヤマサ醤油(株)
ヤマハ(株)
ヤンマーエネルギーシステム製造(株)
ヤンマーパワーテクノロジー(株)
ヤンマーホールディングス(株)

(株)UACJ

(株)ユニバンス

ら

(株)レゾナック

11 第147・148回 品質管理セミナーベーシックコース(東京/オンライン)参加要領

オンラインでのご参加 にあたってのお願い

- ライブ配信のビデオ会議(遠隔会議)システムは「Zoom」を使用します。
- 申込前に、事前に以下のテストサイトで、スピーカーとマイクのテストを確認してください。
<https://zoom.us/test>
※開催当日に視聴できないとのお問い合わせを頂戴した場合、対応できない場合がございます。
- オンラインでは、1IDにつき1名様のお申し込みをお願いしております。複数人での受講はできません。

- ▶対象 実務経験3年以上の技術者・スタッフの方々
- ▶会場 東京クラス: 日本科学技術連盟
東高円寺ビル(東京都杉並区高円寺南1-2-1)
- ▶参加費 682,000円(一般) / 594,000円(会員) ※税込み
- ▶お問い合わせはこちらまで

東京クラス (一財)日本科学技術連盟 BC 担当
TEL:03-5378-1214 E-mail:sqcsemi@juse.or.jp

- ◆本パンフレットのPDFデータを希望される場合は、上記お問合せ先までご連絡ください。

- ◆セミナーのウェブサイトもご覧ください →

開催日程

第147回 (東京)		第148回 (東京・オンライン)	
第1月	2025年 5月 12日(月)～16日(金)	第1月	2025年 10月 20日(月)～24日(金)
第2月	2025年 6月 9日(月)～13日(金)	第2月	2025年 11月 17日(月)～21日(金)
第3月	2025年 7月 7日(月)～11日(金)	第3月	2025年 12月 15日(月)～19日(金)
第4月	2025年 8月 4日(月)～8日(金)	第4月	2026年 1月 19日(月)～23日(金)
第5月	2025年 9月 8日(月)～12日(金)	第5月	2026年 2月 16日(月)～20日(金)
第6月	2025年 10月 6日(月)～10日(金)	第6月	2026年 3月 23日(月)～27日(金)

申込方法

▶ホームページからのお申込み

<http://www.juse.or.jp/>の申込みフォームからお申込みください。

▶E-Mailでのお申込み

次項①～⑦の項目を明記のうえ、下記アドレスにお申込みください。

- ①コース名(例:「147回品質管理セミナーベーシックコース」東京クラス)
- ②開催日(例:「2025年5月12日」)
- ③参加者名(ふりがな)
- ④会社名、所属、役職
- ⑤参加者の連絡先(勤務先住所、TEL、Eメールアドレス)
- ⑥連絡担当者の氏名、所属、役職、連絡先(勤務先住所、TEL、Eメールアドレス)
- ⑦セミナー資料送付先(住所、TEL)

〈セミナー受付専用アドレス〉 regist@juse.or.jp

▶申込み受付から受講まで

上記のいずれかの方法でお申込みをいただきましたら、開催の約1ヵ月前に連絡担当者様宛に「開催のご案内」「請求書」等をお送りいたします。お支払いについての詳細は、請求書に記載してありますが、原則として請求書発行後2ヵ月以内に指定の銀行口座または郵便振替口座にお振込みください。

【キャンセルの取扱いとお願い】

ご本人の都合が悪くなった場合には、原則として代理の方のご参加をお願いします。やむを得ず、お客様の都合でキャンセルされる場合にはE-Mailでご連絡をお願いします。なお、その際にはキャンセル料を申し受けます。

【キャンセル料】

- セミナー開催日の7～4営業日前の17:00までのキャンセル ————— 参加費の50%
- セミナー開催日の4営業日前の17:00以降のキャンセルまたは事前のご連絡がなかった場合 ————— 参加費の100%